

ISSN: 2189-793X

Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University

とうしよけんぶんしつ  
島嶼研分室だより

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 18

2024年3月



企画紹介	p2-3
令和5年度シンポジウム 「奄美群島周辺における自然環境保全とブルーエコノミー」を終えて さいごの分室だより	鈴木英治 高宮広土
研究紹介	p4
南西諸島の海岸で普通にみられるクサトベラの果実のふしぎ 奄美のコウモリを音声で調べる	榮村奈緒子 牧 貴大
分室活動報告	p5-11
学生島体験!	p12
奄美でのフィールド調査	宮本海輝

## 令和5年度シンポジウム 「奄美群島周辺における自然環境保全とブルーエコノミー」を終えて

鈴木英治

(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

令和4年度から鹿児島大学のミッション実現戦略分プロジェクトの一つとして、「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」を国際島嶼教育研究センターと理工学研究科が共同で進めている。令和5年10月1日(日)午後、その成果の一部を発表し今後の方針を考えるためにシンポジウムを開催した。会場として今年度に奄美分室の横に新しく整備されたセミナー室を利用した。現地会場参加者が30名、オンライン聴講者35名で他に鹿児島大学関係者21名が参加した。

講演は2部構成で、島嶼研が進めている「生物と文化の多様性保全」に関わる講演が4件、理工研が進めている「地方創生」に関わる講演が4件あった。島嶼研では世界自然遺産地域のモニタリング、保全対策、将来予測の3つをプロジェクトの重点課題として進めている。そこで最初に農学部の鶴川信博士が植物のモニタリングのために林齢と地形が異なる場所に30個の調査区を設定した話をされた。次いで共通教育センターの藤田志歩博士が、植物モニタリングのプロットにカメラトラップを設定して進めている動物のモニタリングから得られつつある成果を話された。最近アマミノクロウサギの保護が進んだ結果個体数が増加しているが、農作物への食害が一部の地域で問題になってきた。その対策を農学部の高山耕二博士が話された。地球全体の問題として温暖化が進みつつあり、温暖化は湯湾岳周辺の奄美大島の高地にしかない希少植物の生育に悪影響を及ぼし、場合によっては絶滅させる可能性もあることを鈴木が紹介した。

後半の「地方創生」の部では、海洋生態系を維

持しながら海洋資源を持続可能的に利用する経済活動であるブルーエコノミーを、奄美群島やその周辺で行うための研究活動を紹介した。水産学部の江幡恵吾博士が潮流、塩分濃度、海水温などの海の環境データを漁師が広範囲にわたり簡単に見ることができるシステムを作りスマート漁業を進める方法について報告した。続いて同じく水産学部の小針統博士が、海洋のビッグデータを使って流れ藻の予測を行いモジャコ漁に役立てる取り組みを紹介した。海洋のプラスチックゴミは現在世界的な問題になっているが、海岸に打ち上げられたゴミ量をAI技術の利用により定量化する方法について、海洋研究開発機構の日高弥子博士が報告した。最後に法文学部の市川英孝博士が宝島で太陽電池と電動バイクによる再生エネルギーを活用した地域活性化の取り組みを紹介した。

最後の質疑と総合討論の時間には、地域の人から多くの質問があり関心の高さがうかがわれた。



シンポジウムの様子

## さいごの分室だより

たかみやひろと  
高宮広土

(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室は平成27年4月に開設されました。私は奄美分室を担当するために同じくその年の4月に鹿児島大学に採用されました。奄美分室の大きな役割は2つあり、ひとつは鹿児島大学および大学関係の研究者の奄美における研究の促進、ふたつ目は鹿児島大学と奄美群島の窓口となることでした。奄美分室開設によって前者は達成できたでしょうか。大学と奄美群島関係者とのコミュニケーションはよりスムーズに行われるようになったであろうか。不安を残しつつ奄美を去ることになりました。

鹿大に来る前は札幌の大学に所属し、そこから20年以上奄美・沖縄諸島に通い、この地域の先史時代を研究していました。再三述べたことですが、その頃よく地元の方に「本土の研究者に協力したのに、彼らは私たちには成果を何も教えてくれない。データを本土に持ち帰り、論文にして公表するだけ」と慨嘆の声をよく耳にしました。奄美分室はその嘆きに応えることが可能かと想像し、鹿大に移ることにしました。奄美に立ち寄った研究者の最新の研究成果が聞ける「奄美分室で語りましょう」、島嶼研主催の奄美群島におけるシンポジウム、島めぐり講演会、植物観察会、海の観察会、郡元で月1度ほど開催される研究会の奄美分室での中継など奄美分室開設以来多くの場を設け、奄美の方々に最新の情報を提供することに努めてきました。地元の新聞、ラジオやテレビなどでも研究の成果を発信しました。高校生でもわかりやすい書籍を目標とした島嶼研ブックレットも平成26年度から22巻刊行され、そのほとんどが奄美群島に関するものです。これらを通して、私たち研究者は少しは奄美に恩返しできたでし

ようか。これらの活動は今後も継続し、さらにパワーアップされて実施されることでしょう。ご期待ください。そして、上記の分室の活動を奄美の方々に拡散してください。これらの活動に参加することによって、奄美の自然と文化の素晴らしさを再認識することでしょう。

9年前(平成27年)に奄美で生活を始めた頃は地元の著名な考古学者である故中山清美さんと数名しか奄美の方は存じ上げなかったです。この9年間で多くの奄美の方々と接する機会があり、皆優しくて寛大な人ばかりでした(尊敬する中山さんも含め)。失礼な表現かもしれませんが、このような小さな島々で、どのようにしてこのような素晴らしい人たちが形成されていくのかずっと疑問に感じていました。多くの日本人が失った(失いつつある)寛容さがあるのがあまみんちゅ。「本土でもない、沖縄でもない」というフレーズをよく聞かされましたが、沖縄出身で東京暮らしの経験もある私には「奄美は奄美で、本土でも沖縄でもなくていいのでは」ということを痛感した9年間でした。

奄美の方々、素敵な9年間をありがとうございました。島嶼研のメンバー(専任、特任、事務補佐の方々)にも分室で仕事をするという機会を与えてくださり、ありがとうございました。ありがたさまりよーた, to everyone!



奄美分室で語りましょうでの高宮教授(2024年3月)

## 薩南諸島における研究の紹介

### 南西諸島の海岸で普通にみられるクサトベラの果実のふしぎ

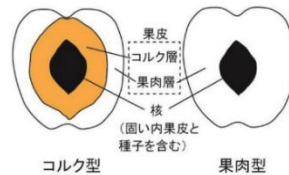
えいむらな おこ  
榮村奈緒子（鹿児島大学農学部）

クサトベラは太平洋とインド洋の熱帯・亜熱帯地域の海岸に広く分布している植物です。日本では南西諸島と小笠原諸島の海岸で普通にみられます。名前と違ってややこしいですが、本種は草ではなく木本、セリ目トベラ科のトベラとは異なるキク目（キキョウ目）クサトベラ科に属しています。

熟すと白色になる果実（写真）には、内部の果皮にコルク層を持つ型（コルク型）と持たない型（果肉型）が存在します（図）。この二型は個体間変異で、1つの木にはどちらか一方の型の果実しかつげません。外見では区別出来ないなので、果実をつぶして確認してみてください。コルク型と果肉型は、どちらも果肉層を持つので、ヒヨドリなどの鳥類に食べられることで種子を散布します。コルク型は水に長期間浮くコルク層を持つため、海流に種子を散布することができます。

この二型は環境によって出現頻度が異なることがわかっています。コルク型は砂浜（奄美大島のヤドリ浜など）、果肉型は海崖（徳之島の犬田布岬など）で出現頻度が高くなります。このように出現頻度が

異なる理由の一つとして、砂浜は海崖よりも波による攪乱が大きいので、種子が海流に散布されるコルク型がより適しているためだと考えています。



クサトベラの果実の写真（上）と  
果実の二型の図（下）

### 奄美のコウモリを音声で調べる

まき たかひろ  
牧 貴大（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

コウモリは唯一飛翔することができる哺乳類です。世界で1400種以上が確認されており、ネズミの仲間（げっ歯目）について2番目に種の多様性が高い哺乳類であることが知られています。

コウモリの大きな特徴の一つとしてエコーロケーションを行うことが知られています。エコーロケーションとは生物が自ら音を発し、その反響を聞くことによって周囲の物体の距離や大きさを認識することです。コウモリは夜の暗い環境の中で自ら発する超音波（人に聞こえないほど高い音）を用いることによって障害物やエサ生物の場所を特定しています。エコーロケーションの音声は種によって異なり、それぞれの種のエサ場や獲物を狩るための戦略などの生態を反映しています。

私は奄美大島においてこのエコーロケーションの音声を録音することで、それぞれのコウモリがど

のような場所を生息地として利用しているかについて調査しています。奄美大島では8種のコウモリの生息が確認されており、その内4種が環境省のレッドリストにて絶滅危惧種に指定されています。現在はコウモリの超音波を録音する機材を様々な森林に設置し、樹木の高さや密度等、どのような要因がコウモリの生息地としての利用に関係するかについての調査を行っています。私の研究を通してこれらの種の保全に貢献したいと思います。



森林に設置したコウモリの録音機材

## 奄美分室の活動報告(2023年10月～2024年2月)

### <シンポジウム・講演会>

◎鹿児島大学シンポジウム「奄美群島周辺における自然環境保全とブルーエコノミー」

日時：2023年10月1日(日)

奄美分室・ハイブリッド開催

主催：ミッション実現戦略分プロジェクト「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創生』の革新的融合モデル」(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター・鹿児島大学地域コトづくりセンター)

プログラム：

鶴川 信(鹿児島大学農学部)：世界遺産地域における自然環境モニタリングシステムの構築

藤田志歩(鹿児島大学共通教育センター)：奄美大島における野生動物モニタリング：

生物多様性保全に向けた取り組み

高山耕二(鹿児島大学農学部)：アマミノクロウサギが農家の悩みのタネに？

鈴木英治(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)：奄美の植物への地球温暖化の影響

江幡恵吾(鹿児島大学水産学部)：海の天気予報の構築に向けて～漁業者スマートCTDによる制度向上～

小針 統(鹿児島大学水産学部)：漁師のための海予報～海洋ビッグデータを利用したスマート化技術開発～

日高弥子(JAMSTEC)：地方行政と研究の連携から生まれた海ごみAI：海洋プラスチック問題への挑戦と現状

市川英孝(鹿児島大学法文学部)：小規模有人離島での再エネ活用による地域活性化～宝島での取り組み



鹿児島大学シンポジウムの様子

◎鹿児島大学奄美群島拠点内覧会・シンポジウム 2023

—国際島嶼教育研究センター奄美分室改修記念—

日時：2023年12月16日(土)

奄美分室・ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学

プログラム：

大塚 彰(鹿児島大学農学部)：奄美群島の魅力的な食肉資源

澤田成章(鹿児島大学法文学部)：沖永良部島の持続的発展に向けた教育・研究プロジェクト

奥山正樹(鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター)：

奄美における生物多様性保全とモニタリング

大脇哲洋（鹿児島大学医学部）：奄美～優れた医学教育フィールド

高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）：

自然と調和した島？先史時代の奄美・沖縄諸島



内覧会シンポジウムの様子

### ◎ハーリングが見た軍政下の奄美 奄美群島日本復帰 70 周年記念・記念講演会

日時：2023 年 12 月 23 日（土）

アマホーム PLAZA・対面式開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、英国オックスフォード大学オールソウルカレッジ

共催：奄美群島広域事務組合、鹿児島大学ミッション実現分プロジェクト「奄美群島を中心とした『生物と文化の多様性保全』と『地方創世』の革新的融合モデル」、大和日英基金、グレートブリテン・ササカワ財団

プログラム：

河合 溪（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）：本プロジェクトの背景

桑原季雄（鹿児島大学名誉教授）：ハーリング教授について

シャーロット・リントン（英国オックスフォード大学）：カラー写真で見る 70 年前の奄美の風景



記念講演会の様子

### ◎島嶼研シンポジウム 一地域課題からの「創造」与論島で暮らしと未来を考える一

日時：2024 年 2 月 10 日（土）

与論町地域福祉センター・ハイブリッド開催（奄美分室で中継）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

共催：与論町

プログラム：

池田ひとみ（与論町役場）：老いと障がいへのまなざし

稲留直子（鹿児島国際大学）：島ではぐくむ地域のまなざし

日高彩那（与論町役場）：経験を通して見えてきたこと

裾分理司（与論町役場）：「楽しい」「面白い」をいつまでも

出村雅代（勝手に!!ゆんぬぼ～えい隊<sup>♪</sup>）：防災ゲームからみえてくる地域とのかかわり方

野口貴子（勝手に!!ゆんぬぼ～えい隊<sup>♪</sup>）：もしも!の災害から見る地域

浅尾晋也（宇検村役場）：ヨソのワカモノがシマで暮らしてみた

## ◎奄美群島の渚のいきもの勉強会（2023年度 全2回）

場所：奄美海洋展示館・対面式開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

## ➤ 第1回 奄美群島の渚のいきもの勉強会 ～身近な海に、なにが暮らしているのか～

日時：2023年11月25日（土）

共催：奄美市大浜海浜公園奄美海洋展示館、公益財団法人日本自然保護協会

プログラム：

吉川晟弘（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）：奄美群島に暮らすヤドカリの話

高村洸介・小瀬村岳（奄美海洋展示館）：島で出会った日本初記録の海洋生物

中野 恵（日本自然保護協会）：もっと知りたいシマの海～奄美大島の海を調べるプロジェクト～

## ➤ 第2回 奄美群島の渚のいきもの勉強会

～身近な海・川・陸のいきものについての研究～

日時：2024年2月24日（土）

共催：奄美市大浜海浜公園奄美海洋展示館

プログラム：

牧 貴大（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）：奄美に住むコウモリの声を聞いてみよう！

川上晃生（奄美市立奄美博物館）：幻の貝～オオツタノハを求めて～

打和宏介（奄美海洋展示館）：河川のハゼたちを展示して伝えたいこと

前田達彦（東京大学大気海洋研究所）：奄美の河川におけるオオウナギの行動



第1回渚のいきもの勉強会の様子



第2回渚のいきもの勉強会の様子

## ◎第24回 鹿児島大学奄美群島めぐり講演会

日時：2024年2月17日（土）

沖永良部島 和泊町役場 結いホール・対面式開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

共催：奄美群島広域事務組合

プログラム：

井村隆介（鹿児島大学共通教育センター）：南西諸島と沖永良部島の生い立ち

鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）：沖永良部島の植物

### <セミナー・観察会等>

◎第 41 回奄美分室で語りましょう「奄美大島における貝塚時代遺跡出土の貝類依存体からわかる漁労活動について」

日時：2023 年 10 月 27 日（金）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：川上晃生（奄美市立奄美博物館）

奄美市立博物館の川上晃生学芸員に、貝塚時代の人々の漁労活動についてご紹介いただいた。特に貝類への依存について、現在の分布状況と照合しながらご説明いただいた。

◎第 42 回奄美分室で語りましょう「弱った野生動物と向き合った 10 年」

日時：2023 年 12 月 6 日（水）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：伊藤圭子（奄美いんまや動物病院）

奄美いんまや動物病院の伊藤圭子獣医師に、野生傷病鳥獣の保護活動についてご紹介いただいた。動物たちの写真や動画を交えながら、ご自身がされている保護活動の実際についてご講演いただいた。

◎第 43 回奄美分室で語りましょう「音声調査で明らかにするコウモリの生息地利用」

日時：2024 年 1 月 19 日（金）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：牧 貴大（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

本センターの牧貴大特任研究員がコウモリの音声とそれを用いた調査手法について紹介した。特にコウモリが超音波を用いて行うエコーロケーションと音声の多様性について説明した。

◎第 44 回奄美分室で語りましょう「水族館の話とサンゴの話」

日時：2024 年 2 月 27 日（火）ハイブリッド開催

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：藤井琢磨（日本大学生物資源科学部）

日本大学の藤井琢磨博士に、奄美の海洋生物の多様性についてご紹介いただいた。様々な動画や写真を交えながら奄美大島の海洋生物の多様性はなぜ高いのか、どのような生物が実際に生息しているのかについてご講演いただいた。



奄美分室で語りましょうの様子 左から川上学芸員（第 41 回）、伊藤獣医師（第 42 回）



## ◎植物観察会

## 徳之島 植物観察会

日時：2023年12月10日（日）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

指導者：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

## 沖永良部島の植物観察会

日時：2024年2月18日（日）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：鈴木英治（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

## ◎忘れられた島：奄美大島一絢：きめ細やかな手工芸・上映会

日時：2023年12月21日（木）

主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

講師：シャーロット・リントン（英国オックスフォード大学）



奄美大島一絢：きめ細やかな手工芸・上映会の様子

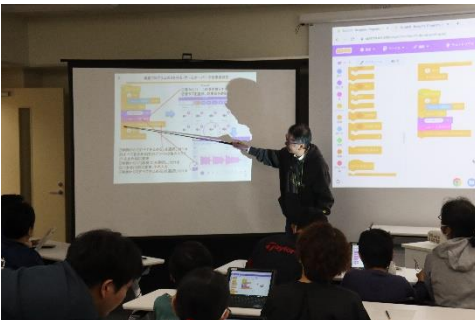
## ◎奄美分室で協力したイベント

## ●2023年12月9日

小山先生の親子でスクラッチゲームプログラミング in 奄美 パックマン風ゲームに挑戦

主催：鹿児島大学理学部

共催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、鹿児島大学情報基盤統括センター



親子でスクラッチゲームプログラミング in 奄美の様子

## &lt; 奄美分室来訪者数 &gt;

のべ 542 名（2023年10月1日～2024年2月29日）

＜奄美分室関連報道記事（令和5年3月～令和6年2月）＞

2023/4/24	奄美新聞	P8	「宗教文化と神社の関係」 鹿大島嶼研・第228回研究会
2023/5/2	奄美新聞	P9	「人材育成と地域発展へ」 大島高校地域機関、大学と連携
2023/5/2	南海日日新聞	P9	「地域と連携、実施的学びを」 大島高校
2023/5/18	南海日日新聞	P9	「犬や猫、病気予防徹底を」 獣医が奄美市で講演 鹿大奄美分室勉強会
2023/5/24	奄美新聞	P1	「米軍政下の調査史料研究支援」 日本復帰70周年記念事業でカラー写真や映像など
2023/5/24	南海日日新聞	P9	「軍政下の群島写真展開催へ」
2023/5/31	南海日日新聞	P8	「ソウル大学・全名誉」 鹿大奄美分室
2023/6/2	南海日日新聞	P7	「海外での利用方法」 バナナテーマに講話 鹿大奄美分室勉強会
2023/6/5	奄美新聞	P8	「放送大学鹿大・河合教授が報告」 タンカン樹被害・マガキガイ漁獲量激減
2023/6/5	南海日日新聞	P9	「クロウサギ・トビンニヤの環境も交え」 放送大学公開講座
2023/6/7	南海日日新聞	P8	「ブックレット2冊発行」 奄美水産業など、鹿大島嶼研
2023/6/9	奄美新聞	P9	「離島漁業経営振興へ提言も」 鹿大島嶼研、ブックレット発行
2023/6/16	南海日日新聞	P6	「ラジオあまみじかん」
2023/6/23	南海日日新聞	P4	「奄美と文化人類学」 桑原秀雄
2023/6/24	南海日日新聞	P7	「三月節句の変遷考察」 鹿大島嶼研が勉強会開催
2023/7/5	南海日日新聞	P8	「鹿大奄美分室の吉川特任研究員」 ヤドカリから進化の謎を探る
2023/7/7	南海日日新聞	P11	「鹿児島大学国際島嶼教育研究センター第231回研究会」
2023/7/11	南海日日新聞	P1	「縄文文化のフロンティア」 天城下原洞穴遺跡の謎に迫る
2023/7/12	南日本新聞	P	「下原洞穴遺跡に期待」 研究者ら鹿大でシンポ
2023/7/20	奄美新聞	P8	「30日鹿大島嶼研、夏休みの自由研究題材に」 路傍植物採集と押し葉標本作り
2023/7/21	南海日日新聞	P7	「めざせ植物博士！」 身近な草花で標本作り、鹿大島嶼研
2023/7/31	奄美新聞	P9	「自然環境考えるきっかけに」
2023/8/1	南海日日新聞	P7	「24年度客員研究員を募集」
2023/8/9	奄美新聞	P8	「24年度客員研究員募集」
2023/8/30	奄美新聞	P5	「サンゴの生きもの観察会」 参加者を募集
2023/8/30	南海日日新聞	P7	「サンゴ礁のいきもの観察会」 参加者募集
2023/9/17	南海日日新聞	P12	「海の生き物に興味津々」 リーフ歩き生態学ぶ
2023/9/20	南海日日新聞	P8	「湯湾岳周辺で植物観察」 約100種を大学教授が解説
2023/9/22	奄美新聞	P5	「自然環境調査報告とスマート漁業の提案」 鹿大シンポ
2023/9/22	南海日日新聞	P7	「環境保全と発展考える」 鹿大島嶼研公開シンポ
2023/9/24	南海日日新聞	P8	「コウモリの生息環境を調査」 種の保全のために
2023/9/26	南海日日新聞	P8	「ヤドカリの生態と魅力語る」 鹿大島嶼研・研究会

2023/9/30	南海日日新聞	P1	「ハーリングが見た奄美①」12月、奄美で報告会・写真展
2023/10/2	奄美新聞	P9	「海の天気予報」でスマート漁業・鹿大シンポ・研究成果を発表
2023/10/2	南海日日新聞	P9	「環境保全と経済発展、両立へ」鹿大シンポジウム
2023/10/15	南海日日新聞	P8	「リュウキュウアユ」いたよ・生き物の多様性、楽しく学ぶ
2023/10/25	産経新聞	P8	「新種イソギンチャクが宿を増築」
2023/11/12	奄美新聞	P8	「大高英語部が英語版地図プレゼン」
2023/11/17	奄美新聞	P9	「世界的な奇跡の島、遺跡国指定化へ周知」
2023/11/17	南海日日新聞	P9	「貝塚人とクロウサギ」講演会
2023/11/22	奄美新聞	P1	「親子プログラミング教室」
2023/11/26	奄美新聞	P1	「新知見の紹介も」
2023/11/26	奄美新聞	P9	「渚のいきもの勉強会」
2023/11/26	南海日日新聞	P9	「渚のいきもの勉強会」
2023/11/26	南海日日新聞	P9	「島の独自性や魅力伝える」
2023/12/3	奄美新聞	P8	「小学生親子向け公開講座」
2023/12/3	南海日日新聞	P8	「親子プログラミング教室」
2023/12/7	南海日日新聞	P7	「奄美分室が改修、内覧会」
2023/12/10	南海日日新聞	P8	「ゲームプログラミングに挑戦！」
2023/12/13	奄美新聞	P5	「内覧会とシンポ」
2023/12/16	奄美新聞	P8	「70年前の「紬工程」映像で」
2023/12/16	南海日日新聞	P8	「多彩にハーリング企画」
2023/12/17	奄美新聞	P9	「リニューアル内覧会」
2023/12/17	南海日日新聞	P1	「島嶼研奄美分室が改修」
2023/12/19	奄美新聞	P5	「ハーリング「写真」一堂に」
2023/12/19	南海日日新聞	P3	「ハーリングが見た軍政下の奄美」
2023/12/20	南海日日新聞	P7	「上映会」
2023/12/21	南海日日新聞	P7	「ハーリングが見た奄美講演会」
2023/12/23	奄美新聞	P9	「米軍統治下の撮影フィルム」
2023/12/23	南海日日新聞	P8	「70年前映像、カラーで」
2023/12/24	南海日日新聞	P1	「ハーリング氏が見た奄美」
2023/12/25	南海日日新聞	P1	「南海天地」
2023/12/26	奄美新聞	P8	「米軍政下の奄美」写真展
2023/12/26	奄美新聞	P8	「復帰記念映像上映会」
2023/12/28	奄美新聞	P1	「群島一丸、盛大に節目」
2024/1/21	南海日日新聞	P8	「コウモリの「声」拾い生息調査」
2024/2/18	南海日日新聞	P7	「地域の暮らし、課題共有」
2024/2/25	南海日日新聞	P8	「若手研究者4人が発表」
2024/2/29	南海日日新聞	P8	「湾ごとに違う風景」

## ～学生島体験！ vol.18～ 「奄美でのフィールド調査」

みやもとかいき

宮本海輝

(鹿児島大学水産学部水産学科 4年)

卒業論文のテーマに、奄美大島に生息するミナミコメツキガニを選んだ私は、2月、7月、11月、12月の計4回奄美を訪れた。初めて訪れた2月では、卒業研究のフィールド調査だけではなく、海岸への流入ゴミ調査のお手伝いも行ったため、約1週間の長い滞在となった。大自然を目の当たりにし、奄美に魅了された私は、ゴミ調査の合間を縫って、観光や散歩、食事などを堪能した。わずかだが、奄美のことを知ることができた。特に、食事に私は非常に感動した。鶏飯をはじめとする、海鮮、島豆腐、山羊汁など、また食べたくなるような美味しいものばかりであった。後に、私の所属する研究室の山本智子教授に、「食べ物のことばかり・・・」と嘆かれることになるのだが。

私の研究テーマであるミナミコメツキガニは、甲長1cmほどのカニで、体色が青くクモのような見た目であり、小さいながらもなかなかインパクトのあるカニである。奄美大島のマングローブが発達した干潟で、歩き回る本種の姿をよく目撃することができる。本種を採集するために、奄美大島の干潟を訪れたのだが、あまり干潟を歩き慣れていなかった私は、土の中に埋まることが何度もあり、大変苦労した。2回目となる7月の調査でも苦労し続け、調査フィールドの1つである手花部の干潟では、履いていたサンダルが泥の中に埋まった。この調査を通して、カニのこと以外にも様々なことを学んでいるような気がする。

数回奄美を訪れ、毎回同じ干潟で調査していると、表面の底質が変わり、地形も微々たるものだが変化しているため、その度に自然の脅威を感じる。美しい奄美を維持するため、自然と共存しながら大切に守っていくことがいかに大切かということ、身をもって体感できた。私は、今後も奄美での調査を継続する予定なので、この大自然で過ごすことのできる幸せを噛みしめながら、たくさん奄美のことを知っていきたいと思う。



住干潟に広がるミナミコメツキ  
ガニの大群

### お知らせ

2024年3月をもって、本センターの高宮教授が定年のため退職いたします。同じく3月をもって吉川特任研究員が任期満了に伴い退職いたします。今後とも島嶼研及び奄美分室へのご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

### 編集後記

奄美での1年間の活動で様々なことを学ばせていただきました。来年度はよりいっそう研究・分室の活動に参加していきたいと思っております。

牧 貴大

### 島嶼研分室だより No. 18

令和6年3月15日発行

鹿児島大学

国際島嶼教育研究センター奄美分室

〒894-0026

鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島  
紬会館6階

TEL: 0997-69-4852 FAX: 0997-69-4853

E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp

http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/

表紙写真:

リュウキュウアオヘビ

(撮影: 2023年5月、牧 貴大)

ISSN: 2189-793X

Facebook Instagram X(Twitter)

